

世界遺産暫定リスト登



記者会見される池浦福津市長、麻生県知事、谷井宗像市長(左から)

九月二十六日文化庁は、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を世界遺産国内暫定リストに記載することを決定しました。これは、世界遺産として登録するための必須条件となります。世界遺産として日本には、法隆寺や古都京都、厳島神社など十一の文化遺産と屋久島をはじめ三つの自然遺産が既に登録されています。次はこの世界遺産に登録されるように準備を進めます。

現在世界遺産となっているものは、すべて文化庁が推薦し、国内暫定リストに記載後、世界遺産委員会を経て登録されるというものでした。しかし、一方的な国内暫定リストへの推薦には、明確な基準がなく、世界遺産を目指す自治体としても門戸が開かれていませんでした。そこで平成十八年から暫定リスト追加記載にあたっては、世界遺産を希望する地方自治体からの公募という形に方針が変わりました。

今回の公募制によって、平成十八年度には二十四件が提案書を提出し、そのうち四件が暫定リストに記載され二十件が継続審議となりました。本遺産はこのとき継続審議となりました。

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」
世界遺産国内暫定リストに記載
宗像市役所 秘書課



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

11月祭事暦

- 1日 天皇陛下御即位二十年奉祝祭
午前11時～ 浦安舞奉奏
- 毎月1・15日 月次祭
午前10時～ 高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～ 総社祭
豊栄舞奉奏(15日)
- 3日 明治祭
午前10時～
- 23日 新嘗祭
午前11時～

十一月になると神社では、七五三詣での家族連れで境内が賑わう。しかし最近では少子化の影響で七五三に訪れる参拝者が年々少なくなっており、神社にお参りする時期も十一月に限らなくなつて来た。以前は十一月十五日前後の休日が七五三の参拝者で混雑していた。また記念写真なども数ヶ月前から写真館で前撮りの写真を撮る子供さんたちが増えている。そうである。七五三は三歳の男児と女児、五歳の男児、七歳の女児と、それぞれの年齢に達した子供たちの成長をお祝いする行事であるが、この形式ができたのはそれほど古くはなく、元来は公家や武家社会で行われていた別々の子供の儀式(髪置き・髪をのばす、袴着・袴をつける、帯解き・大人の着物に替え帯を結ぶ)がある時期に統合され、一般の社会に広まり今の形になったものと言われている。七五三という名称も明治以降につけられたものである。昔は「七歳までは神の子」といわれ七歳の子供までは人間ではなく神様からの預かり物という認識がなされていた。ほんの少し前までは、乳児の生存率が低く、子供が七歳まで生育することが困難な時代でもあった。こういう考えをもとに子供たちの成長を神様に感謝し、祝う節目の行事として定着したのである。▼今、現代社会ではさまざまな事件や事故が多発し、住み難い世の中となっている。これからの将来を背負って行く子供たちのためにも、その土地の氏神や近くの神社にお参りをして、無事成長を祈っていただきたい。(杉)

神具・装束・授与品

井筒

東葉店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上り
フリーダイヤル 0120-075-980

福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092

授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市稲元4丁目20 電話(0940)32-2567

平成十九年度には新規に十三件の提案がありました。最終的に継続審議中の二十件は、一件が統合されたため十九件となり、新規の十三件を含め計三十二件が今回の暫定リスト入りを目指す候補となりました。

この三十二の案件から、文化審議会文化財分科会世界文化遺産特別委員会による調査や審議を行い、本遺産を含む五件が世界遺産国内暫定リストに記載されました。これによつて、国内には、十三の文化遺産と一つの自然遺産が暫定リストに記載されることとなります。

暫定リストに記載された「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、顕著な普遍的価値を持つ可能性が高いと認められたのですが、国際的な評価を得る上では不十分とされ、以下に示す五つの課題が示されました。

一、国内外の同じような資産との比較研究を進め、国際的な専門家会議の開催を通じ、顕著な普遍的価値に

ついて国内外の専門家による合意形成を図ること。

二、「厳島神社」との十分な比較研究を行うこと。

三、推薦資産の名称について主題及び構成資産の内容を正確に反映した最も適切なものとなること。

四、古墳の保護範囲の確定と追加資産の検討、島の神聖性や原生的な自然環境などを確実に維持するための具体的な検討を行うこと。

五、未指定の古墳については、国指定史跡としての手順を検討、また、資産の核となる部分とその周辺保護地域の範囲及び方法について、早急な実現を図ること。

世界遺産に登録されるための最近の傾向として、顕著な普遍的価値の明確化や、恒久的な保護措置の確立が求められています。石見銀山の場合、ユネスコ世界遺産委員会の調査機関イコモスの判断では、登録延期でしたが、世界遺産の可否が決定される世界遺産委員会では、環境破壊を伴わず、鉱山として採掘が行われ

ていたという世界的に例が無いという点で評価され、世界遺産に登録されました。ところが、奥州平泉の場合は、浄土信仰の根底にある思想から、善人悪人生きている物すべてが浄土の世界に行くことができ、そこから世界平和を願うという基本理念で世界遺産に臨みましたが、西洋人にとつて悪人も浄土にいけるといふ考え方が理解できず、その説明に時間を費やし、結果、継続審議となったということです。

これからの、世界遺産登録には、世界情勢に適合し、世界の人々が感銘を受け、納得し、それを簡単に表現できる内容が必要となつてきます。文化庁から与えられた課題を整理し、新たに世界遺産登録基準に適合した顕著な普遍的な価値をもう一度検討していくこととなります。そして、世界遺産登録が最終目標ではありません。本当の目標は、本遺産を人類共有の遺産として如何に保存管理し、将来にわたって守り続けていくかであり、から、終りはありません。



秋季大祭齋行

台風十五号の影響も少なく、好天に恵まれ、三日間、多くの参拝者で賑わう

台風十五号接近かと連日予報され、十月一日の海上神幸「みあれ祭」の齋行が懸念されたが、天気も好転し無事三日間の秋季大祭(田島放生会)が齋行された。

本年は水曜日からと平日での齋行であったが一日の入御

祭のお出迎えを始め、連日多くの参拝者が押し寄せ境内は三日間で十一万人の参詣者を数えた。

◆十月一日◆

台風の影響で、やむなく中止した平成十年同様かと思われたが、進路を九州南部へと変

え、午前七時海上神幸「みあれ祭」の齋行が決定した。

午前八時三〇分、中津宮で出御祭が齋行され、大島小学校校鼓笛隊による「崖の上のポニヨ」の先導に続き、沖・中両宮の御神輿は島民総での見送りの中大島港へと御神幸した。

午前九時三〇分、花火の合図とともに沖・中両宮の神輿を乗せた御座船が、「波切り御幣」「紅白の吹流し」「大漁旗」

で飾った約一二〇隻の大船団に守られながら出港。大島港を出ると海上は波高三メートルの大時化であったが、玄界灘を順調に進み上空にはヘリコプターが何機も舞い取材を行った。

神湊の波止場には既に多くの拝観者が殺到、午前九時過ぎには隣接の駐車場も満車状態となった。神湊港沖で三宮の御座船は一年振りにお揃いとなり、供奉してきた各船は順

次各港へ帰港、宗像三女神は一緒に神湊港へと入港された。前日までの天候により、本年は旧玄海魚市場で頓宮祭を齋行。御座船奉仕者に感謝状と記念品が贈呈された。

その後、御座車で辺津宮まで陸上神幸、正午過ぎ無事に三宮の御神輿は辺津宮本殿に入御された。一日祭(入御祭)では、主基地方風俗舞が保存会々員の奉仕で厳かに奉奏さ



時化の中、齋行された「みあれ祭」



先導船の神職も必死でした



本年は魚市場での「頓宮祭」となりました



献金の提灯を奉納された佐々本恵美子氏



長参道の幟旗を奉納された小島正弘氏

れた。

◆十月二日◆

流鏝馬神事・翁舞

二日午前八時から、神門前の馬場道で流鏝馬神事が奉仕され、馬上の射手が地上七筋の的に向けて、次々と矢を射ると見学者から盛んな拍手が起こっていた。

午前十一時からの二日祭では、福岡市の喜多流(梅津忠弘氏門下)社中の奉仕により、能管や鼓の鳴り物に合わせ「翁舞」が神前に奉納され、この風雅な舞に多くの参拝者は足を



高宮神奈備祭での「悠久舞」

止め見入っていた。

祭典終了後、清明殿で直会が執り行われ、小島家により代々奉納されている手水舎前の大幟をこの度新調頂いた小島正弘氏(福津市勝浦)、また祓舎に平成十年に続き紫幕を御奉納頂いた佐々木恵美子氏(鳥取県)の両名に、神島宮司より感謝状と記念品が贈られた。

◆十月三日◆

浦安舞

三日は午前十一時から三日祭が斎行され、地元玄海中学の女生徒四名による浦安舞が



【翁舞】

奉納され、十二単姿の舞姫は、拜殿に詰めかけた多くの参拝者を魅了した。

この三日祭終了後には、高宮、第二宮、第三宮、宗像護国神社に奉仕神職、参列者がそれぞれに分かれ、秋季大祭が執り行われた。

午後二時からは、拜殿で南坊流瀧口社中による献茶祭も奉仕され、本年は約二十名が昇殿し、二代洗心庵・瀧口宗芳氏による見事なお点前が披露された。

そして午後六時、高宮斎場



地元中学生による「浦安舞」

で高宮神奈備祭が斎行され、神島宮司以下神職、太宰府天満宮神職・巫女、小林栄二会長以下氏子青年会員約三十名の総勢約五十名の奉仕で斎行された。

浄園の祭場で「悠久舞」が奉奏されると一同感動の様子であった。この高宮神奈備祭で三日間に亘る秋季大祭は無事に締め括られた。

各奉仕者は下記の通り(敬称略)

◆御座船

- 沖津宮 第三新幸丸 (船頭 八尋新吾)
- 中津宮 第三冲栄丸 (船頭 冲西豊幸)
- 辺津宮 健 栄 丸 (船頭 三苦健二)

◆先導船

- 第二健栄丸 (船頭 三苦英了)
- 玄 洋 丸 (船頭 赤間幸明)

◆花火船 第三海漁丸 (船頭 冲西一宏)

◆報道船 み た け (宗像漁協大島支所)

◆陸上神幸奉仕車

- 御座車 西九大運輸倉庫(株)・(株)新出光・宗像地区タクシー協会
宗像観光協会
- 先導車 宗像観光協会・宗像地区交通安全協会
宗像市消防団第十一分団
- 供奉車 宗像市消防団第十二分団・玄海ホテル旅館組合

◆主基地方風俗舞奉仕者

- 〈舞方〉清水陽介、中野久志、吉田光利、松井徳一郎
- 〈歌方〉石津典秀、吉田敏幸、岩佐洋一、中野正徳、福崎武志

◆氏子奉幣使 石塚正伸 (宗像市)

◆流鏝馬射手奉仕者 古川師、木稻修一、木稻貴史

◆浦安舞奉仕者 岩佐亜美、岩佐春佳、岩佐保奈美、中野美里

◆南坊流献茶祭 二代洗心庵・瀧口宗芳 (宗像市山田)



「みあれ祭」の開始を待つ船団



氏子奉幣使を御奉仕された石塚正伸氏

秋の交通安全安全キャンペーン

〜辺津宮・第一駐車場で実施〜

九月二十三日、宗像警察署、宗像交通安全協会と協力し、当大社第一駐車場、秋の交通安全キャンペーンを行い、宗像路を走るドライバーに安全運転を訴えた。

当日は爽やかな天候に恵まれ、巫女数人が参加し、約一時間にわたって多くのドライバーに安全運転を訴えた。



三人の命が奪われた痛ましい事故から二年が経つが、残念ながら飲酒運転による交通事故はいまだに後を絶たない。「自分は大丈夫」「このぐらい良いだろう」という過信、甘えが、飲酒運転が無くなる根底にあるのであり、飲酒運転だけでなく、



全ての交通事故にこれらは共通する。

人間の心を変えていくことは、時間がかかる。地道ではあるが、ことあるごとに啓発運動を続けていくしかない。今後、当大社では、街頭キャンペーンをはじめ交通安全啓発運動に積極的に関わり、少しでも交通事故の減少に携われればと思う。

新連載のお知らせ

「沖ノ島の鳥たち」

一面記載の通り、沖ノ島が世界遺産の暫定リストに追加されました。文化的な側面からは大変貴重であるとの認識は高いのですが、沖ノ島は自然の部分でも大変貴重な動植物が生息しており、国・県の鳥獣保護区にも指定されているほどです。

なかでも、鳥類は以前から関係者の間では強い関心が寄せられており、数々の学術機関が調査を行っています。そこで今回、北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)学芸員の武石全慈氏に取りまといいただき、同氏の他に武下雅文氏、岡部海都氏

氏の三氏に「沖ノ島の鳥たち」と題した沖ノ島に生息する貴重な鳥に関して、五回シリーズで連載していきます。紙面の都合で隔月になる可能性はございますが、ご高覧賜ればと存じます。

- 一、オオミズナギドリ 武下 雅文氏
- 二、ヒメクロウミツバメ 岡部 海都氏
- 三、カムリウミツバメ 武石 全慈氏
- 四、沖ノ島の鳥にまつわるトピックス 武下 雅文氏
- 五、沖ノ島の鳥類相の特徴 岡部 海都氏



スペースワールドの向かいにある「いのちのたび博物館」
【お問い合わせ先】いのちのたび博物館 電話(093)681-1011

尚、写真は先日、連載のお願いと視察をかねて訪問させていただいた、執筆者の勤務される北九州市立自然史・歴史博物館の写真です。恐竜の標本をはじめ、貴重な剥製も数多くあり、見て触れて楽しめる博物館でしたので、ご紹介させていただきます。



館内には巨大な恐竜も展示されています



足下にも展示品があり、斬新です



今は禁止されている貴重な鳥の剥製も数多くあります



原寸サイズの剥製は強烈です

授与所の装いを一新

「折敷」を新たに製作

九月十五日から、斬新な感覚と参拝者の要望に叶えばと新たな意匠の御守を頒布しております。

それに伴い、その御守を納める「折敷」も、機能的でしかも神社として相応しいものをと一新致しました。

当大社の授与所は、本殿前と祈願殿待合所の二ヶ所ございますが、いづれの授与所でも社頭が賑わうとどのような御守・御札が何処においてあるのかわかりずらく、長年の懸案事項でもありました。

この度試行錯誤の末、桐製の軽い木材を用いて少し高さを出し、アクリルやプラスチック等は一切使用せず、皆様に分かりやすく「鎮守の杜」のイメージを前面に出せるよう配慮しました。

今後は一年で最も多くの皆様に参拝いただく正月を念頭に、暫時製作してまいります。年内は今回完成したものを使用致します。

さらに、参拝者への授与品ご案内をより充実したものと、授与所上部に御守やお札等を掲示する木製の枠も設置していく予定です。

ご参拝の折には、刻一刻と装いの変わっていく宗像大社の授与所にご期待下さい。



旧本殿授与所



旧祈願殿授与所

本殿授与所

祈願殿授与所



新本殿授与所



新祈願殿授与所

健康守の御紹介

無病息災といった健康を御祈念申し上げた御守が新たに加わりました。

生活習慣病、高齢者の増加、また健康志向等、今日健康を特に意識される方が増えておられ、社頭でも「健康の御守はありませんか」という問い合わせが多々あり、この度奉製致しました。

いつまでも健康でいられますようにと「健康」の文字を刺繍し、色はページジュ、海老茶、錆青、利休茶という日本古来からの四色です。

本殿・祈願殿授与所で頒布しております。



錆青



ページジュ



海老茶



利休茶

(続)

浜の寄物

231

いいいただし



私の勤めている古賀市立歴史資料館では、夏の企画展「仮面」につき、ミニ展示だが(展示ケース五台)、旅行の先々で買われた郷土人形や記念の土産人形等を展示している。

最近の人形は、木彫りや土人形が少なくなり、プラスチック人形が多く、趣がなくなつた。木や土の素材がいろいろだが、人形まで外国で作られるからであろう。

人形の歴史は「仮面」と同じように、古く、分布も限られているが、観光用として作られるところも近年多い。人形のはじまりは、旧石器時代頃からあり、ロシアのアヴテープオやシベリアのマルタ遺跡出土のものは、マンモスの牙を加工したビーナス像もある。日本でも縄文時代の早期ごろからあり、土偶は縄文時代後期・晩期には東北や関東で

盛行した。青森県・亀ヶ岡遺跡出土の遮光器をつけた土偶は、かならずといつていいほど縄文時代を記述する時には掲載されている。土偶はマツリが終わると共に、バラバラに破壊されたものが多く、完形品は極めて

る。人形は六十八点、馬形四十二号、舟形が一〇八点で、他に鏡・玉などが、加工しやすい滑石でつくられている。金銅製人形や鉄製人形は五号遺跡と十二号遺跡に七点ほどで数は少ない。薄い金属板を切り抜いたもので



▲アフリカの人形

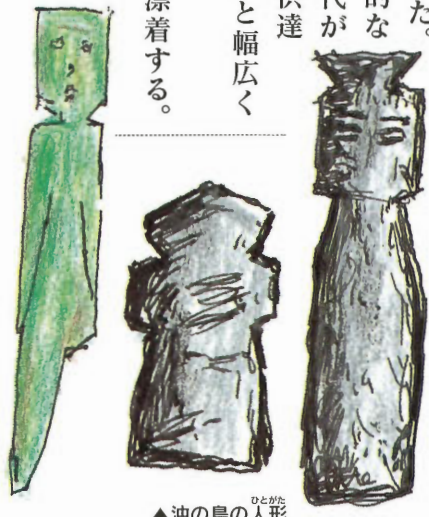
ある。沖ノ島の人形は六形態に分類されて、目、鼻、口を彫りこんだものもある。頭部、胴部、胸部の部分に切り込みを入れたもので、全体的に簡潔で、符牒のようになって終わる。馬形や舟形も同様に変化をしている。人形の素材は時代と共に骨や牙、石、木、金属と使われ、紙

少ない。展示した土偶も足とか手とか胴部である。沖ノ島の滑石製形代は八世紀代の奈良時代後期ごろで、祭祀にカミヘ捧げられたもので、一号露天遺跡から出土して

や布などでも作られた。最初は宗教や信仰的なものであったが、時代がさがつてくると、子供達の玩具や装飾、愛玩と幅広く変化していく。

海岸にも人形は漂着する。これは不用になったりして棄てられたもの、災害で流出したもの、宗教的儀礼のあと海へ棄てられるか、流されたものである。北海道の観光土産のアイヌ人形は多いし、宗教的な仏像、神像もある。異国からのものも多くあり、台湾、中国や東南アジア、太平洋諸島からのものもある。

漂着ではないが、アフリカの人形も一部展示している。仮面と同じ分布だが、ガーナのアシヤンティ族やファンティ族の人形はアクアバ人形といつて、頭部が円形や長方形で、安産や強い子が生れることを祈願するものである。カメルーンとナイジェリアの国境に住むナムジ族は人形の体に貝殻やビ



▲沖の島の人形

ーズ・豆を巻きつけた子宝祈願のために首から吊す。日本の人形では東のコケシ、西は熊本・日奈久のベンタは素朴でいい。土人形は全国各地で作られたが、今は数も少ない。博多人形は洗練されすぎてしまった。津屋崎人形、八女の赤坂人形、長崎の古賀人形、宮崎の佐土原人形などは伝統を守り素朴で土の温もりがあつて見飽きしない。



▲東北コケシ

▲日奈久ベンタ

第五六七回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切



うきは市 浮羽町 向 則正
 冷房に馴れぬ身体に耐へかねて昔ながらの団扇使へり
 昔男ここにあり。昔とは即ち省エネなのである。ありのままを詠い今の時代を皮肉っている。

北九州市 八幡西区 吉田ウト子
 訴えを「不特定愁訴」と記す若き医師美しき福耳今朝も見てゐる
 「不特定愁訴」を受けての結句の「今朝も」のもの働きに注目。原因は判っていないから医師の許に何回も通う作者である。

福津市 中央 池浦千鶴子
 姑のやうにあれこれ小物に鈴を付け出掛けるわれも古希をすぎたり
 「姑のよう」を受けての四句は「われも出掛ける」がいい。姑との歳月の長さが背後にある。

福岡市 南区 井田有久衣
 久延彦の神社の前に佇めば眼路の彼方に大和三山
 万葉集の聖地とも言ふべき大和の大神神社での作。次回は大神神社から見た三山の景を詠って欲しい。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ
 彼岸花咲き初めし日に年貢のごと新米届けり里の弟
 姉を思う弟、弟の住む地はまた作者の里である。四句は「新米送りく」がいいのでは。

宗像市 日の里 大和美由紀
 夢にでも会ひたい人とスーパーで七年ぶりに再会果たす
 心憎くからぬ人だろうか、親友だろうか、いずれにしても嬉しい一瞬。会う、再会の重複を避けるためにも、「夢にでもと思ひてゐしが」の方法もある。

宗像市 田久 巻 桔梗
 高宮にしづかに落ちて鯛はにぎやかな蟻の群れに葬らる
 静かさと賑やかさ、原作では意図がややあらわで惜しい。一、二句を「高宮の林に落ちし」位に押えた表現が欲しい。

宗像市 田野 森 甲子
 稲穂垂るる畦に真つ赤な簪を突き立て咲けり彼岸のくれば
 結句の「ば」が気になり彼岸花群も考えたが、花の名を出さずに彼岸花を詠ったお手柄に敬意を表し原作のまま鑑賞した。

宗像市 東旭ヶ丘 天野 玲子
 二階より見さくる丘にマンシヨンのによつきり建ちて不夜城となる
 アメリカの大不況に端を発しマンシヨンの売れ行きは不振と聞かすが、ここでは不夜城となる位に需要は旺盛なのだろう。「見さくる」は音感が悪いので「日々見る」の表現もある。

宗像市 田久 井上 光
 行く秋のあかとき覚めて世を喚く幼ら哀れに死に行くを喚く
 幼児の命に簡単に手をかける世相を喚く作者。三句で喚くとあるので結句は死にゆくこととした方が、喚きが強く出るのでは。

宗像市 東郷 山口 節子
 盆の入り鮪一つき捕獲するテレビ見しわれ「みずず」を思ふ
 気持の良く通った一首であるが、二句は「梶木鮪一突き」が正しい。

宗像市 光岡 佐藤 純一
 長い髪風に吹かれし青空に海の如くに水着はブルー
 長い髪風に吹かるる海岸に水着は青空色のブルーよとすべきだろう。

宗像市 光岡 一木 照代
 たそがれに鷺の番は稲穂から羽ばたく姿は遅れをとらじ
 稲田でつがい鷺の羽ばたきを詠ったと思うが、それならたそがれに鷺の番は稲田にて羽ばたきてをいずれも美しくとすべきであろう。

病む妻も病まざるわれも衰へしままに今年の八月終る
 大房の黒き葡萄を買はんとす残暑に食の戻らぬ妻に
 今日一日家事を仕切りに呉れし娘が星美と言ひつつ帰る

第五四二回 俳句作品集

福津市 勝浦 高山 睦子
 秋潮や女人禁制の島遙か
 宗像市 平井 占部 詩子
 玄海の潮鳴り鎮む星祭

宗像市 神湊 永島 紀子
 短冊のはらりとほどけ天の川
 宗像市 日の里 花田いつ枝
 来し方やいまこころわれカン子燃ゆ
 秋茄子を嫁に食はせし平和かな

宗像市 田久 巻 桔梗
 ジャンプせば十六夜の月取れさうな

編集後記 紙面の通り、沖ノ島と関連遺産群が世界遺産の暫定リストに記載されました。出土品八万点は全て国宝、国の史跡、原生林は天然記念物、県・国の鳥獣保護区と国内ではありとあらゆる指定を受けており、残っているのは世界遺産くらいしかないのかもしれない。沖ノ島は島自身が信仰対象であり世界遺産を目指すこと自体に慎重な意見もありますが、宗像三宮の氏子として先祖累代守り伝えてきた市民の皆様の気持ちと、その民意を充分理解し真摯に取組んだ行政の熱意には心動かされました。この欄を書いて、明日から十日間その沖ノ島勤務に行つてまいります。肅々と神明奉仕するのみですが、もう一度沖ノ島を見つめなおしてこようと思ひます。(塚)

宗像大社社務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
 電話 0940-62-1311 (代)
 発行人 葦津幹之
 編集人 大塚宗延
 制作 セネラルアサヒ
 印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円